

職員室のみんなで考える 教職員の人材育成

～校内組織づくりを充実させ個人の成長につなげる～

西部教育局
お役立ち情報
令和6年3月号

「人材育成」を「管理職だけのワード」と捉えていませんか。教師一人一人が輝くことで学校全体が活性化し、教育活動が充実します。教師自身の成長を客観的に振り返り、子供の成長につなげましょう。



「校内組織」における人材育成



※参考資料
「OJTによるひとり人材育成の手引き」
鳥取県教育委員会（令和3年4月）

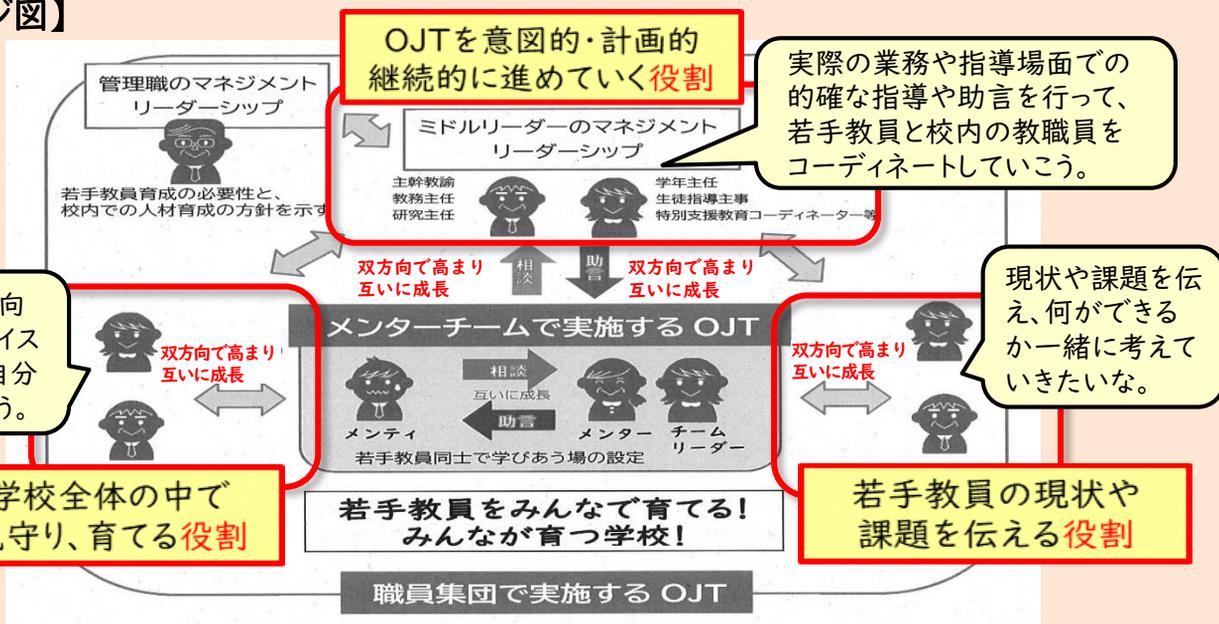


「OJT」はOn the Job Trainingの略で、校内における日常の業務を通じて、**教職員として必要な知識や技能、態度等を身に付け高める育成活動**のことです。

OJTの効果は…

- 実践的な人材育成
- 適時、的確な人材育成
- 意図的・計画的・継続的な人材育成
- 校内の学びの体制づくり
- 仕事の効率化・職場の人間関係、信頼関係の構成

【イメージ図】



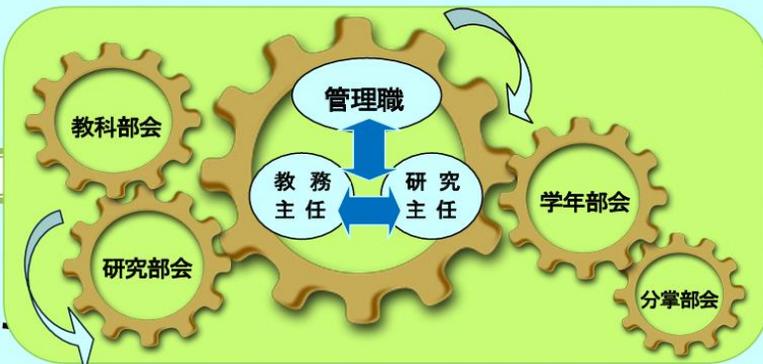
上の【イメージ図】で示しているような「人材育成システム」を活用して、組織として意図的・計画的・継続的にOJTを進めることで、若手教員の育成とともに、**全ての教職員がそれぞれの役割の中で成長できる組織づくり**の実現が期待できます。

【イメージ図】

人材育成



(例) 校内授業研究を通じた人材育成



《ポイント》

- ①授業研究の主体はあくまでも一人一人の教師であり、自ら学ぶ姿勢を尊重すること。
- ②授業研究に意義を感じ、積極的に関わろうとする教師の態度を支えながら実りある授業研究にすること。
- ③一人一人の教師が意欲的に取り組むための組織づくりをすること。
- ④管理職をはじめ、学校の様々な分掌のリーダー等が、管理職のビジョンや学校経営方針、年度の重点事項等を理解し、具現化すること。